

# テスト設計コンテスト'18 U30 クラス

## アピールシート

※ 全体でA4縦4ページに収まるように記述してください。

|       |            |      |     |
|-------|------------|------|-----|
| チームID | S180809001 | チーム名 | TBD |
|-------|------------|------|-----|

### ◆チームの紹介◆

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

#### チーム紹介

ソフトウェアテストに携わる若手7人がテストリテラシー向上を目的としてチームを結成しました。

チーム名の由来は、チーム名が即決できなかったことから「TBD」としており、そのままチーム名となりました。

TBDはT: とりあえず B: バグ D: 出しとく?の略としました。

#### 全体のコンセプト

後継機のテストを想定したテストスクリプト流用を可能とするテスト設計を目指しました。

施策として、機能仕様と要求からテスト設計までのトレーサビリティを明確にするよう意識して作業を行いました。

#### チームのテスト設計の強み・アピールポイント

若手を中心としつつも、既に実務暦が長く、知識や経験が成熟してきたメンバーが何名かいます。

若手の持つ勢いや先入観の無い発想と、それを支える経験者のスキルを融合できるのが我々の強みです。

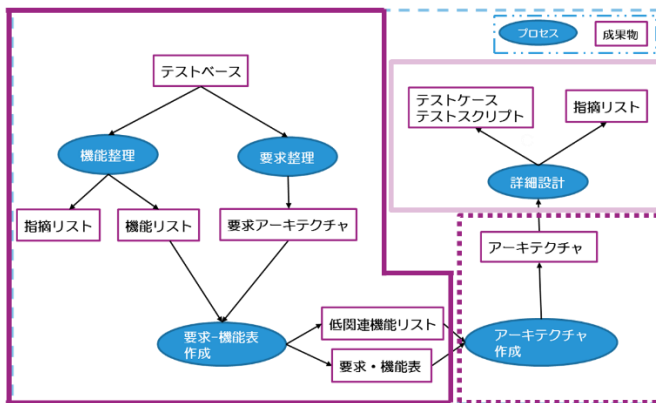
## ◆チームの戦略・方針◆

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書(審査対象の成果物など)への参照で記述しても構いません。

## 【プロセスの説明】

チームのテスト設計のプロセス(テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性)の全体像を、モデル(PFD やアクティビティ図など)や文章で示してください

テスト要求分析  : テストすべきこと(要求)の洗い出し+テスト戦略策定  
 テストアーキテクチャ設計  : テストすべきことのまとめ+全体像設計  
 テスト詳細設計  : テストの具体的な手段の設計



7

テストベースからテストケースまでのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

テストベースおよびテストケースの中間成果物であるテストアーキテクチャにて、テストベース（機能仕様 func、および要求 RQ）とテストタイプの対応を俯瞰できるようデザインしました。また、テストタイプとテストケース間のトレーサビリティをテストケース一覧で確保しました。

func.1、func.2、func.6

給湯機能（=お湯を沸かす、お湯を注ぐ）評価

func.2

リスク評価

RQ1

RQ4

RQ32

RQ14

セールスポイントが欲しい

RQ33・34

RQ36

RQ31

RQ25

## 【テストの構造の説明】

採用したテストアーキテクチャの優位性を記述してください

機能仕様、要求、テストタイプの関連が俯瞰できるため、後継機のテストの際に機能仕様や要求の変更が起きた場合、テストへの影響を即座に判断することが可能です。

テストベースに対する網羅性の確保(目的を満たすようにテストベースを網羅する)で、どのような工夫をしたか記述してください

要求ベースのテスト設計を行いました。要求の精査が終わった段階で要求-機能のマトリクスを作成し、テストベースに記載されている機能の抜け漏れを確認しました。

テストベースに対するピンポイント性の確保(無駄なテストを作らない)で、どのような工夫をしたか記述してください

要求をグルーピングしてテストタイプを抽出する際に関連機能単位でのグルーピングを意識したため、テスト間での冗長性を排除することに成功しました。

## 【活用した技法や手法の説明】

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください(記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義は JSTQB に従います)

同値分割法、境界値分析、デシジョンテーブル、状態遷移テスト、直交表テスト、ユースケーステスト、ユーザーストーリーテスト

テスト設計についての既存の方法論(HAYST 法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど)や体系(ISO29119、STEP など)で、今回使用したものがあれば記述してください

なし